

さぶろうまる だより

学力特集号

平成29年12月1日
北九州市立三郎丸小学校
校長 今瀬 顕成

平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

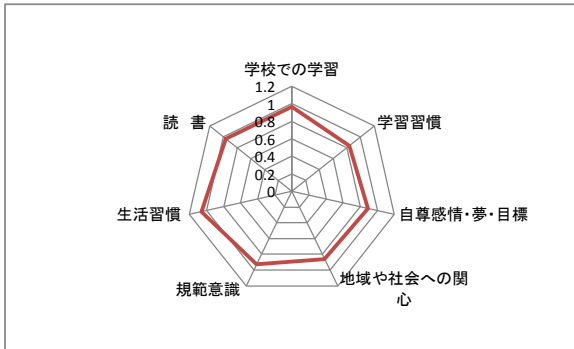
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	<ul style="list-style-type: none">漢字の書き取りに課題があり、無解答率が高かった。俳句の情景について考えたこととして適切なものを選択する問題は、全国平均を上回った。複数の資料から読み取って正しく選択したり、解答したりする問題は正答率が低かった。	下回っている
国語B	<ul style="list-style-type: none">自分の考えを理由づけて書く問題では無解答率が高かった。話合いの発言の意図を読み取る問題では、全国平均を上回った。スピーチメモとグループの話合いで出た意見をもとに書く問題では、条件を満たして書くことに課題がある。	下回っている
算数A	<ul style="list-style-type: none">計算の順序が正しく理解できており、全国平均を上回る正答率であった。公式が正しく理解し、活用する問題では正答率が低かった。数直線や関係図などをもとにして考える問題に課題がある。	下回っている
算数B	<ul style="list-style-type: none">与えられた情報から、基準量、比較量、割合の関係をとらえたり、法則性を見つけ出す問題に課題がある。与えられた情報から、正しいものを選び出す問題では、正答率は高かったが、理由を述べる問題では無解答率が高かった。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

・国語科・算数科の基礎的基本的な内容の定着を図ることができるよう、5校時開始前10分間の「チャレンジタイム」を継続し、全校で一斉に取り組む。

・「北九州スタンダードすべての教師のための授業改善ハンドブック」リーフレット版を全職員が手元に置き、「わかる授業」づくり5つのポイントを踏まえた授業実践を行うとともに、「授業改善点検評価シート」による自己評価活動の徹底を図り、授業改善に取り組む。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・学年の発達段階を考慮しながら、児童の実態に合った家庭学習における自主学習への取組を推進する。高学年に関しては中学校の自主学習を紹介する。校内掲示や学級掲示などで、取り組み方のよい児童を紹介することにより、意欲の向上と継続を図る。

・質問事項「朝食を毎日食べていますか。」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。」においては全国平均を上回っているにもかかわらず、テレビゲームやスマホをする時間の平均は全国を大きく上回っている。「二極化」が進んでいると言える。懇談会や学校だよりなどで家庭に規則正しい生活の大切さを呼びかけていく。